

認知症地域支援推進員の取り組み ～大阪府高槻市の場合～

認知症の人等にやさしいまち たかつきを目指して



2018/9/6

於：金沢ニューグランドホテル

社会医療法人 愛仁会
高槻北地域包括支援センター
認知症地域支援推進員
辻田裕之

※ 使用している写真は掲載許可を得ています

もし、自分が認知症になったら・・・

**自分のまちで
自分は、どう暮らしていけるだろうか？**



高槻市の概要

【大阪府高槻市】

総人口

353,099人 (平成30年6月末)

高齢者数

101,396人 (平成30年6月末)

高齢化率

28.7%

日常生活圏域数

4圏域

包括数

委託型 12箇所

面積

105,29km²



大阪府高槻市

大阪と京都の中間にある中核都市 町と自然が融合しているのが特徴です



高槻市 認知症施策（事業）の全体像

認知症施策推進総合戦略～認知症高齢者等にやさしい地域づくり
に向けて～（新オレンジプラン）の推進

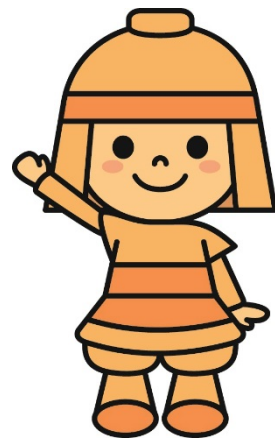
1 認知症への理解を深めるための普及・啓発

2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護の提供

3 若年性認知症施策の強化

4 認知症の人と介護者への支援

5 認知症の人にやさしい地域づくりの推進



高槻市認知症地域支援推進員の役割

- ・地域の人・取り組みを繋ぎ、認知症支援ネットワークの構築を目指す
- ・認知症の人への理解と対応力を高める
- ・あくまでも本人主体！本人・家族の声を施策に反映

市民への
啓発活動

認知症
ケアパスの
普及・啓発

見守り
ネットワーク
構築

初期集中
支援チーム
との連携

若年の
人の
支援

認知症
カフェ立ち
上げ支援

認知症対応力
向上研修の
企画・実施

多職種連
携研修の
企画・実施

家族会
支援

個別
相談

ケアマネ
支援

などなど

今回お伝えしたい内容は 「見守りネットワーク構築について」です

〔何故なら・・・〕

認知症地域支援推進員として
さまざまな取り組みを行っていますが
キーワードは「**人**」だと思っています。
認知症の人やその家族が住み慣れた
地域で安心して暮らしていくには多くの
人の理解と支援が必要だからです。



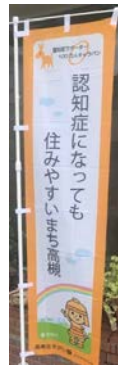
認知症地域支援推進員だけで地域の取り組みはできません。

高槻市で展開している

「安心・声かけ運動」についてお伝えします。

安心・声かけ運動とは

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる地域をつくるために「認知症サポーター養成講座」「認知症徘徊搜索模擬訓練」を通して、参加者が認知症について正しく理解し、地域でのつながりをもってもらうことを目的としています。



□ 徘徊高齢者SOSネットワーク

認知症高齢者等が徘徊行動により行方不明になった場合に備えて、情報を事前登録し、行方不明時には捜索協力機関に情報提供を行い、迅速な発見を目指す

□ 徘徊高齢者家族支援サービス

位置検索システム（GPS）端末の貸し出し

□ 見守り安心ネットワークシールの配布



安心・声かけ運動を始めた経緯

- ・平成24年 「安心して徘徊できる町」を目指す

福岡県大牟田市への視察

人口約12万人

認知症で行方不明になったり、事故に巻き込

まれるケースをきっかけに、地域ぐるみの

見守りを行うため、平成16年から行っている。

毎年約2000人の市民が参加している。

**人口規模の違いや
近所付き合いが薄れている
都市部では
そのまま導入するのは難しい…
どうすれば…**



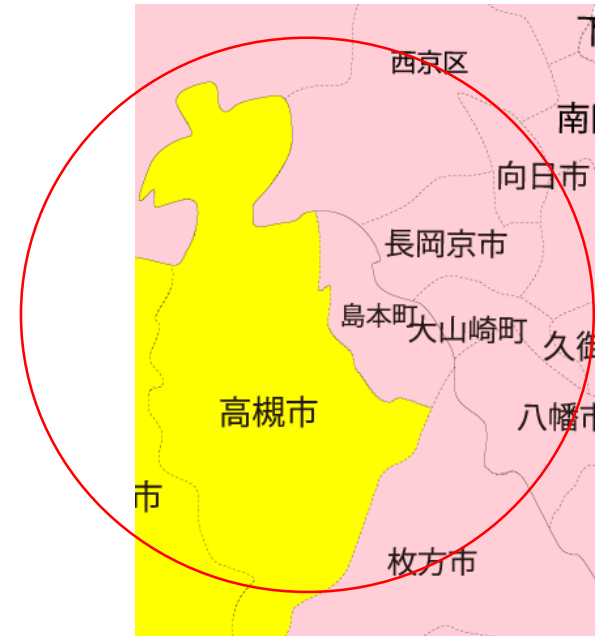
**行政、認知症地域支援推進員
大阪府認知症介護指導者らが
試行錯誤しながら…**

**「普段の暮らしの中で
見守る目を増やしていきたい」**

平成25年度	2箇所	寿栄・川添地区 日吉台地区
平成26年度	3箇所	寿栄・川添地区 桃園地区 富田小学校
平成27年度	4箇所	清水地区 北清水地区 富田小学校 赤大路小学校
平成28年度	3箇所	北清水地区 赤大路小学校 富田小学校
平成29年度	1箇所	長岡京市主催 (高槻市・島本町・大山崎町共催)

全国初 「迷い人広域搜索訓練」実施

京都府長岡京市から依頼を受け、
京都府乙訓郡大山崎町、大阪府三島郡島本町、
大阪府高槻市と連携した模擬訓練を実施



平成29年9月21日

～認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）～

学校教育等における、認知症の人を含む高齢者への理解の推進



小・中学校で認知症サポーター養成講座を開催



学校で認知症の人を含む高齢者への理解を深める
ような教育を推進

今後進んでいく少子高齢化に対応できる地域を
作るには、児童に対しての教育が非常に重要！

高槻市立富田小学校・赤大路小学校 いまとみらい科

学習ポイント① いまとみらい科の設定

総合学習→いまとみらい科へ
「家庭（命）」「学校」「地域・社会」をテーマに
小・中の9年間で社会参画力の育成を目指す。

学習ポイント② S-RPDCA学習サイクル

自分たちの立ち位置を見つめる（S）→広い視野から学習課題を見つける（R）
計画（P）し、実行（D）する。結果を振り返る（C）→次の学習へ活かす（A）



「ほっとタウン

～自分たちができること」をテーマに
15コマずつ授業を行うことに

どのようなカリキュラムが効果的かな？



**大阪府認知症介護指導者さんにも
取り組みに関わってもらおう！**

**授業で児童に
伝えたい内容**



**学校の方針：
困っている人に目を向け
地域に関わる意識付け**

- 児童に高齢者の気持ちを知ってもらい、認知症の病気と対応について学んでもらう
- 児童が、困っている人に対して必要なサポートをする方法を学び、地域でどのように関わっていくかを主体性をもって考えてもらう機会をつくる

赤大路小学校認知症講座 ～全5回のカリキュラム内容～

- ① 高齢者の気持ちを学んでもらう
(高齢者擬似体験)
- ② 認知症の病気と対応について学んでもらう
(認知症サポーター養成講座)
- ③ 気付きの視点を養い困っている人への接し方を
学んでもらう (寸劇を通して)
- ④ 実際に地域にでて困っている人に声をかける体験して
もらう (安心声賭け運動)
- ⑤ 地域で困っている人に対し、自分たちに何ができるの
かを、主体的に考え、取り組む機会をもってもらう

高齢者の気持ちを学んでもらう(高齢者疑似体験)

年をとるって
大変…

眼が見えないと
怖い！！

2016/01/13

2016/01/13

平成28年1月13日

児童に「自分たちに何ができるか」を考えてもらおう



認知症の病気と対応についての知識を持ってもらう

(認知症サポーター養成講座)



認知症になっても
できる事は
たくさんあるんだ～

認知症は特別な
病気じゃないんだ



**オレンジリング！
サポーターになった！**

認知症の事を
知ったので優しく
接してあげたい

2016/01/15

平成28年1月15日

気づきの視点を養い困っている人への接し方を学んでもらう

正面からゆっくりと
話しかけなきゃ...

あんた誰やった？

平成28年1月15日

安心声かけ運動実施 (徘徊模擬訓練)

～実際に地域に出て
声をかけてみよう～

サポート役

認知症者役

困っている人役



どちらに行かれるん
ですか？

平成28年2月3日

地域の協力のもと行っています

- 地域包括支援センター
- 民生委員・児童委員
- 地区福祉委員
- セーフティボランティア
- PTA
- 地域の医療機関
- 地域の介護保険事業所
- 福祉用具業者
- 認知症介護指導者
- 社会福祉協議会
- 高槻警察署
- 高槻市役所 など

赤大路小学校安心声掛け運動 (実施のご案内)



日程: 平成29年2月7日(火)
時間: 14:00~15:30

赤大路小学校5年生「いまとみらい科」において、認知症の人を含む高齢者への理解を深める授業に取り組んでいます。授業の一環として、認知症の人などが自分たちが暮らす地域の中で困っていた場合、それに気づき、声を掛けるなどの必要なサポートをすることが実践できるようになる訓練(安心声掛け運動)を上記の日程で行います。ご理解・ご協力のほど宜しくお願いいたします。

【お問い合わせ先】

高槻市立赤大路小学校
電話:072-695-3157

学校教育等における認知症の人を含む 高齢者への理解の促進活動



平成29年8月23日
読売新聞朝刊より

自分たちが困っている人に対し、 何ができるかを考えてもらう



バスに乗った時は、高齢者
や妊婦さんに席をゆずろう



平成28年2月10日

学校の取り組みと今後の目標を発表する 機会をもってもらおう

やさしい声かけをテーマにしたポスターを
駅や店にお願いして貼ってもらおう！



平成28年2月10日

児童たちの実践

週一回、授業時間や放課後に、オレンジリングをつけて
班ごとに地域を探索する

みんなでゴミ拾いをする

すぐしまってしまう踏切や段差の大きい階段に気づいたが
バリアフリーにするのは自分達では無理
しかし、つまづいてこけないようにゴミを拾うことはできる

『困っている人を助ける d a y』として、
週一回オレンジリングを付け地域を探索し、
ゴミ拾いをするという活動をする事になった



地域での取り組みから学んだこと そして皆さんへのメッセージ

■ 出会った人の**本音**や**つぶやき**が企画の源

■ 「最初から上手くはいかない」

課題が共有できれば、一緒に動いてくれる
人は必ずいる。

■ 一人では何もできない。**仲間をつくる。**



今後の課題兼活動・取り組みの方向性

あくまでも本人主体(一人一人の支援を大切に)

若年性認知症対策強化/認知症サポーターの活躍の場/キャラバン
メイト連絡会/家族会・認知症カフェなどの後方支援

個々の支援から地域課題を検討・資源の活用へ

認知症ケアパスの整理・充実
「オレンジセーフティネット」モデル事業への参画

本人と家族を支える多様な連携の場づくり

医療・介護・民間企業・一般市民など顔の見える関係づくりのための
場確保/医療と介護の連携強化に向けて研修会の開催

ご清聴ありがとうございました！



RUN伴2016 高槻市役所前にて